ダイジェスト版

公認会計士の魅力

博多高等学校
2016年3月17日

公認会計士・監査審査会
常勤委員　廣本　敏郎

公認会計士の世界

３つのキーワード

Ⅰ. 公認会計士とは？ ――“監査”及び“会計”の専門家

公認会計士の使命

公認会計士は、**国家試験である公認会計士試験に合格した者だけに与えられる資格**であり、公認会計士法にその使命等が規定されています。

《公認会計士法第1条》
公認会計士は、監査及び会計の専門家として、独立した立場において、財務書類その他の財務に関する情報の信頼性を確保することにより、会社等の公正な事業活動、投資者及び債権者の保護を図り、もって国民経済の健全な発展に寄与することを使命とする。

会計なくして経済なし

公認会計士は、グローバル化が急速に進む日本経済の健全な発展のために、監査人、コンサルタント、組織内会計士など、経済社会の様々な局面で、きわめて重要な役割を果たすべく幅広く活躍しています。

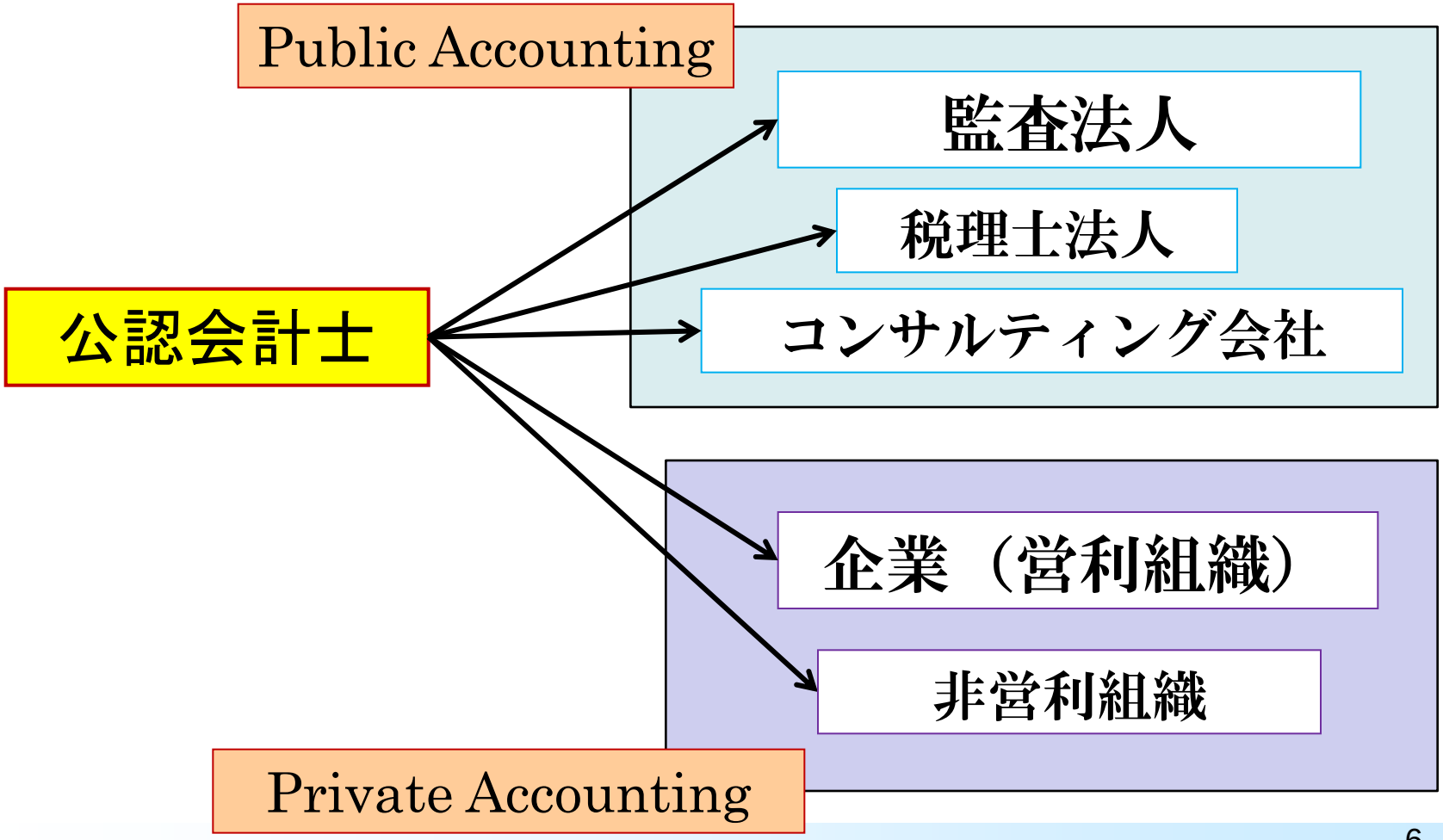
DVD

- 日本公認会計士協会
  - 『転校生は公認会計士！』
    （本編18分）

活躍する公認会計士

グローバル経済の中で幅広く活躍

公認会計士の活躍領域


Public Accounting
監査法人
税理士法人
公認会計士
コンサルティング会社
企業（営利組織）
非営利組織
Private Accounting

Ⅱ. 活躍する先輩からのメッセージ

鎌谷真美さん

平成21年試験合格
監査法人勤務

学生時代より、将来、結婚をして子供が生まれても、仕事を続け、長く社会に出て活躍していたいという思いが強くありました。そこで、人生の選択の幅をひろげるためには、何か資格をもって専門知識を身に着けようと思い、公認会計士という職業に興味を抱き、志すようになりました。

ひとつの企業で働きながら、さまざまな業種、さまざまな規模の会社に接することができるのは公認会計士の仕事の魅力のひとつです。また、多くの人と出会いコミュニケーションをとる中で、信頼を得られたときに、大きな喜びを感じています。

渡部 豪さん

平成21年試験合格
監査法人勤務

経営に近い位置で仕事をしたいと思っていた私は、会計が事業計画や投資判断など経営の重要な場面で必要不可欠なツールであると知り、興味を持ちました。

これまで20社以上のクライアントに関与しました。様々な業界動向や各社の事業戦略、ビジネスモデルを誤りなく回すための仕組み（内部統制）などを間近で見ることができる点に、面白味を感じています。

経験を活かし、コンサルタントや証券アナリスト、ベンチャー企業のCFO等、様々なフィールドで活躍している先輩方もいらっしゃいます。志次第で多様な選択肢が広がっている点も、公認会計士という資格の魅力の一つだと思います。

瀬戸 学さん

平成22年試験合格
物流会社勤務

私が公認会計士を志望したのは、日本で最高峰の資格であり、会社経営に不可欠な「会計」についての専門性の高さと、守備範囲の広さに魅力を感じたからです。

新卒で入社した事業会社に合格後も勤務しておりますが、受験と実務を通じて得た財務/管理会計・税務・経営学等の網羅的な知識により、M&Aやコーポレートガバナンスなど様々なことへの対応力が格段にアップしたと実感しています。また、社内外から信頼を得やすい、発言に説得力が出る、というメリットもあります。

キャリアアップに結びつくやりがいのある資格なので、皆さんもぜひ挑戦して下さい。

石下絢子さん

平成19年試験合格
大手銀行勤務

私は専門性を生かしつつ、女性としてのライフスタイルの変化に柔軟に対応し、第一線で活躍し続けられる仕事がしたいと思い、公認会計士を目指しました。

現在は金融機関に勤務し、会計・税務面のアドバイスや、日・米・欧の会計基準設定団体に対する意見発信等、専門性の高い業務を行っており、今後も会計の国際化の波の中で、より一層活躍の幅を広げていきたいと思います。

公認会計士には、会計・監査・税務のプロとして、社会からの高い期待と幅広い活躍のフィールドが約束されています。高い志を持った皆様と一緒に働ける日を楽しみにしています。

海外の４大ネットワーク

	EY	KPMG	Deloitte	PwC
業務収入 1ﾄﾞﾙ=120円	3兆1,000億円	2兆8,100億円	3兆8,880億円	3兆8,500億円
内訳 監　査	1兆3,120億円	1兆2,250億円	1兆5,720億円	1兆7,710億円
税　務	8,340億円	5,960億円	7,320億円	9,810億円
アドバイザリー	9,540億円	9,890億円	1兆5,840億円	1兆980億円
公認会計士などの専門家人数	166,973人	148,701人	129,864人	152,708人

会計なくして経済なし

市場経済のインフラとしての会計

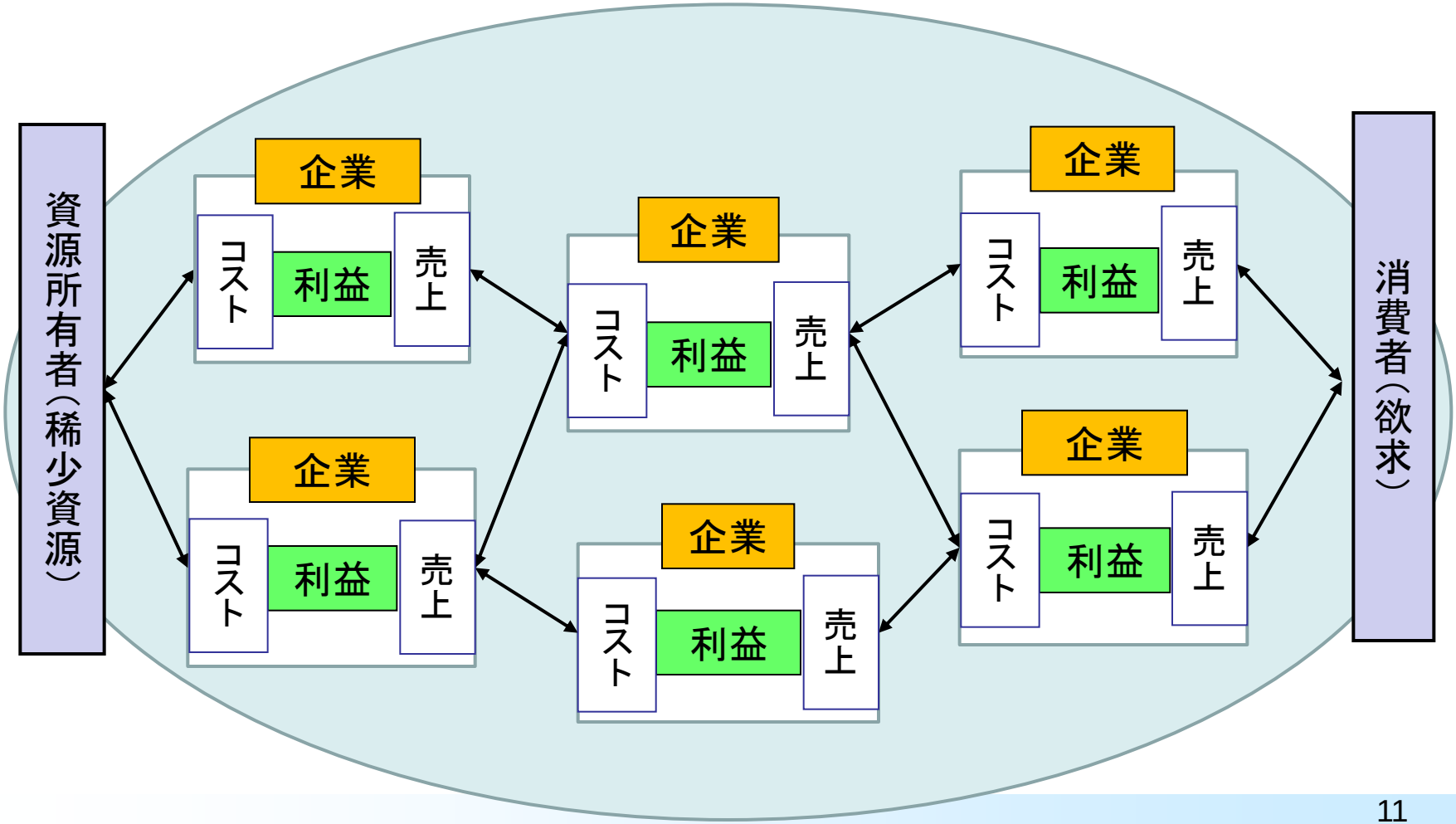
公認会計士の使命

（公認会計士の使命）

公認会計士は、監査及び会計の専門家として、独立した立場において、財務書類その他の財務に関する情報の信頼性を確保することにより、会社等の公正な事業活動、投資者及び債権者の保護等を図り、もって国民経済の健全な発展に寄与することを使命とする。

（『公認会計士法』第１条）

市場経済は利益獲得を目指す企業間取引のネットワーク



利益至上主義の経営？
～松下における経営と会計の実際～

- 松下電器では、毎月各事業部の決算が中央に集まり、本社で克明にチェックしている。
  - 何を“よりどころ”としてチェックしているかと言えば、それは…創業者の示されている経営の基本方針である。
  - 例えば、ある事業部が大きな利益をあげてもそれが経営の基本方針に反し、世間から非難されるような手段によって得たものであれば、絶対に承認されないのである。

（続く）

松下における経営と会計の実際（続）

– 逆に、利益のあがっていない事業部があれば、我々の考え方は、たとえいかに競争が激しくても、社会に貢献していれば必ず適正な報酬、つまり利益はいただけるという考え方であるから、利益が得られないということは、どこかに欠点があるはずだと考えて、厳しく追及していくようにしている。

（高橋荒太郎『語り継ぐ松下経営：
名補佐役が語る若き人たちへの遺言』
PHP研究所、2008年、 214-215頁）

利益を測る技術の誕生

- 利益を測る技術としての「複式簿記」
  - それは、遅くとも1400年代の北イタリアで、地中海貿易に従事した商人たちによって生み出された。

歴史上の証拠

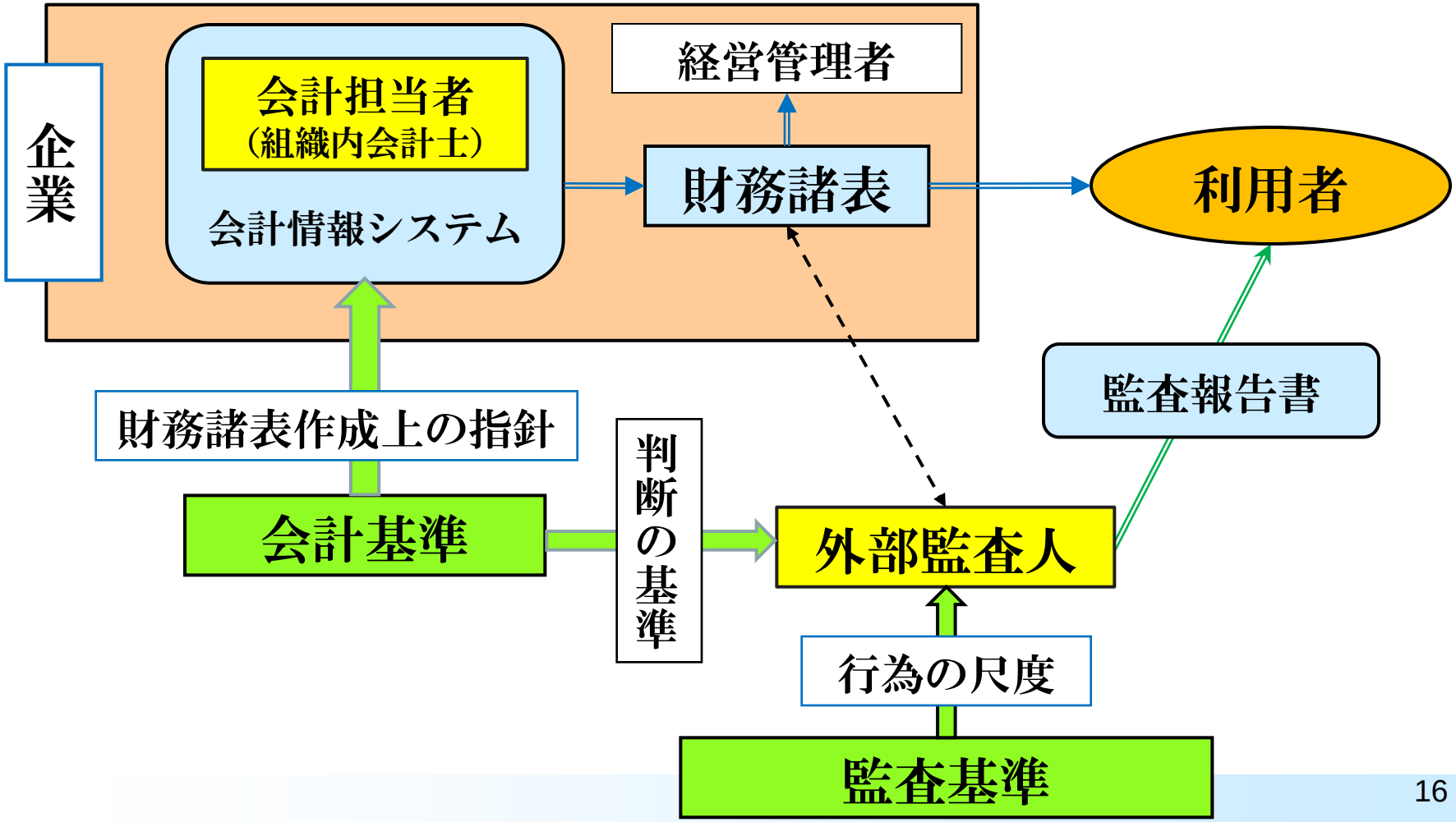
ルカ・パチョーリ(1445-1517)がヴェネツィアで1494年に出版された数学の教科書の中で利益測定技術（複式簿記）を解説

（桜井久勝神戸大学教授の夢ナビライブ講義より）

明治における複式簿記の導入

- 複式簿記は、明治の文明開化によって、さまざまな文物とともに西洋から日本に導入された。
  - 日本への西洋式簿記の導入は、明治6年、幕末明治の啓蒙思想家である福澤諭吉がアメリカ簿記テキストBook-keepingを翻訳（『帳合之法』）出版したことに始まる。

財務情報の信頼性確保のシステム
～公認会計士の重要性～



国家戦略としての会計人材の育成

会計人材の育成

- 金融庁の「金融行政方針」（2015年9月）には、次のように書かれている。
  - 会計人材には経済社会のさまざまな分野での活躍が求められており、また、金融・資本市場のグローバル化、企業活動の海外展開等の進展にも適切に対応していく必要がある。
  - （こうした中）監査業務を担う公認会計士という職業に関心を持つ者の拡大を図るため、会計監査や公認会計士資格に関し、高校生等若年層や女性に向けた広報活動を、日本公認会計士協会等と連携して推進する。

（8頁）

公認会計士は、皆さんの未来の魅力ある選択肢の1つです。

自分が向かうべき将来に向かって
しっかりと地固めをして
悔いのない高校生活を送ってください。

公認会計士・監査審査会　廣本敏郎